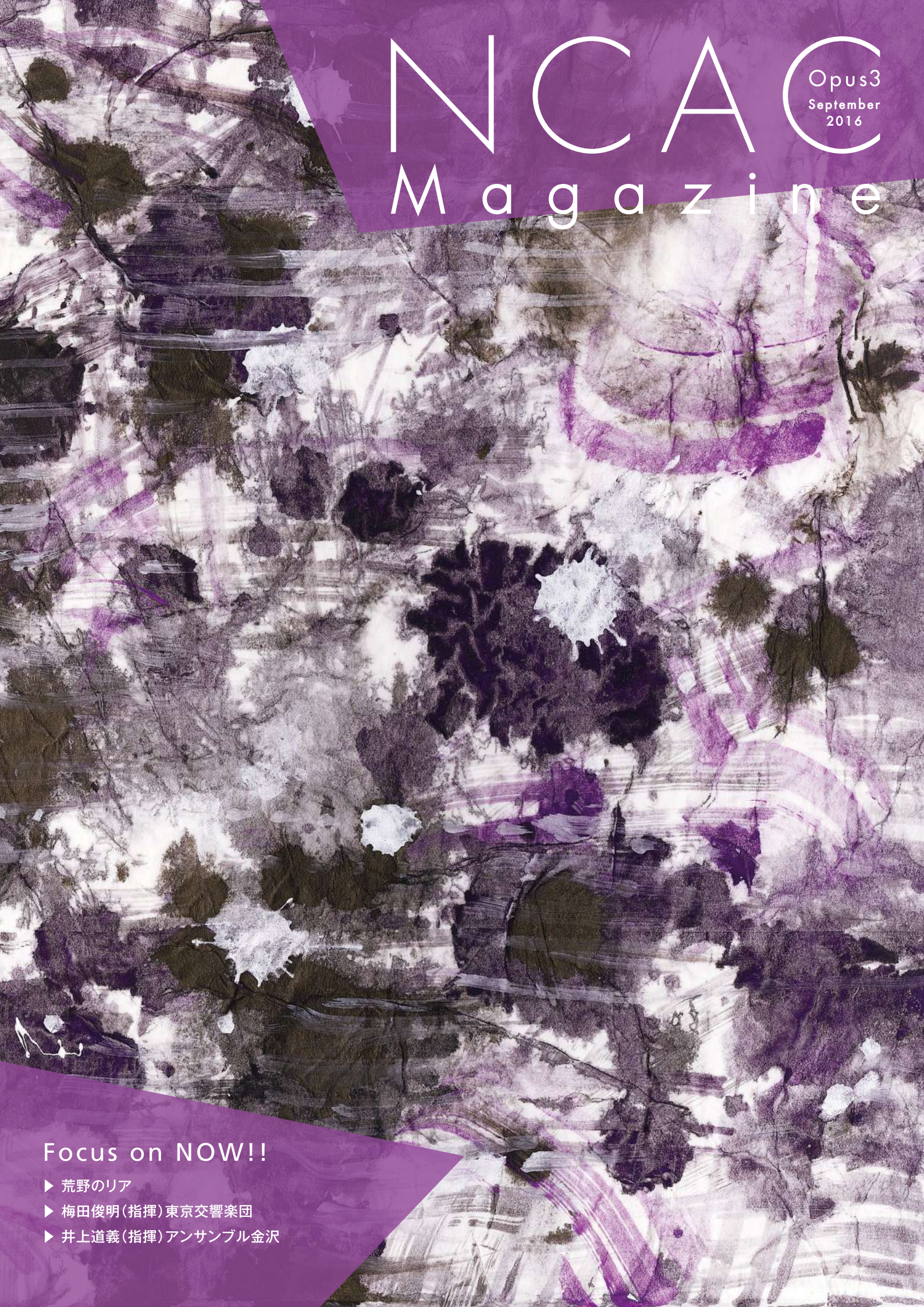




NCA C

Opus3
September
2016

Magazine

Focus on NOW!!

- ▶ 荒野のリア
- ▶ 梅田俊明(指揮)東京交響楽団
- ▶ 井上道義(指揮)アンサンブル金沢

Contents

Focus on NOW!!

荒野のリア(取材・文: 今井浩一)	1
梅田俊明(指揮)東京交響楽団/井上道義(指揮)アンサンブル金沢(文: 東条碩夫)	3

Pick-up NOW!!

・小池博史ブリッジプロジェクト仙台版「風の又三郎/2016」	5
・侍BRASS楽団長・中川英二郎によるアンサンブル・クリニック	5
・神尾真由子(ヴァイオリン)&ミロスラフ・クルティシエフ(ピアノ)デュオリサイタル	5
・えんげきワークショップ・ファシリテーター養成講座 NCAC音楽大学「音楽の分かる大人になろう!」講座 NCAC音楽大学「リトミック」講座 NCAC音楽大学「音楽華道」講座	6

Stage Information

7,8

ユジャ・ワン/侍BRASS 2016 川中島/TSUKEMEN LIVE 2016@長野市芸術館/すべてのピアノ愛好家に贈る〜小川典子スペシャル・マスタークラス&ミニ・コンサート/人形劇俳優“たいらじょう”の世界『よだかの☆星/セロ弾きのゴーシュ』/VOCES8 クリスマス・ライブ/ウィーン・リング・アンサンブル ニューイヤー・コンサート/ナガノ・チェンバー・オーケストラ第3回定期演奏会

Ticket Information

9

- ・三遊亭兜斗ミュージカル落語「宮沢賢治」
- ・二兎社公演41「ザ・空気」
- ・クラブNCAC ミステリー・ジャズナイト
- ・オペラシアターこんにゃく座 オペラ「想稿・銀河鉄道の夜」

Facilities

10

- ・アクトスペースについて、語ります。

News

11

- ・人形劇俳優たいらじょうが、小学生と共に2日間で人形劇をつくります!
- ・音大受験であがらないために、実技模擬試験を受けてみませんか?
- ・親子で楽しむ長野市芸術館「サマー・キッズ・デイズ2016」終了です

How to get tickets

12

- ・Nチケ会員募集中! NCACチケットオンライン/NCACチケットセンター ご利用案内

Partners

13



長野市芸術館アクトスペース

アクトスペースの天井の造り、その黒と対照的なライトの光が印象的で、そこからイメージを膨らませ描きました。

越ちひろ Chihiro Koshi/ 画家

1980年長野県千曲市生まれ。2006年東京造形大学卒業。2004年トーキョーワンダーウォール賞受賞後、東京都庁での個展を機に数々の展覧会を開催。2015年にはニューヨークにてグループ展に参加したほか、長野駅ビルの壁画完成。表現の幅は広く、ライブペインティング、CDジャケット、地域イベントへのアートの提供など、キャンパスの枠を超えたアートの可能性を世界に展開している。

「ヒステリックで破滅する王」の物語の中に見えてきた、誰にも身近な「老い」のドラマへ

『荒野のリア』演出家・川村毅インタビュー

取材・文：今井浩一（演劇ライター）

写真：松林真理子

1980年代の小劇場ブームを牽引した劇団「第三エロチカ」を率い、過剰、過激、ラディカルと評される作品で一世を風靡した劇作家・演出家の川村毅。新宿を拠点に大暴れしていた初期から、シェイクスピアや三島由紀夫などの古典の読み直しを行う中期、そして傾倒するドイツの劇作家ハイナー・ミュラーがそうだったように、古典戯曲に想を得た新たな戯曲創造、ひいては演劇の考察に取り組んできた。その間「第三エロチカ」を解散し、自作のプロデュースカンパニー「ティーファクトリー」を立ち上げ、演劇マニアだけではなく、本来あるべき姿としての、大衆のためにある演劇を目指すべく、人間の深遠さに迫ろうとしている川村。その一つが2014年に初演され、今回長野公演を行う『荒野のリア』だ。

これまでの川村さんとシェイクスピア作品とのつながり、そして2014年に『リア王』を選んだ理由を教えてください。

シェイクスピアは『マクベス』を『マクベスという名の男』として、『タイタス・アンドロニカス』を『タイタスの肉屋』として過去に上演したことがあります。『マクベスという名の男』は各国の演劇祭に招かれ10カ国以上で上演した、僕らにとっては90年代の代表的な舞台です。ですからシェイクスピアと私は実はとても縁が深い。『荒野のリア』を初演した2014年は、シェイクスピア生誕450周年ということで、最近拠点としている吉祥寺シアターのシェイクスピアシリーズで声をかけてもらいました。いろいろな作品を読み直してみましたが、『リア王』がこんなに面白いものなんだ!という新たな発見があって。なかでも特に3幕以降が本当に面白かった。

その「発見」とは、どのようなことだったのでしょうか?

一般的に『リア王』という作品は、リア王とその領地をめぐる三人の娘、特に末っ子のコーディリアを中心にした物語と認識されています。ですが今の僕にとっては、後半のリアや、リアの重臣グロスター、この男も二人の息子との関係の崩れから悲しい運命をたどるのだけれど、そういう阻害された男たちのすたもんだの方が面白いと思ったんです。

それで、いきなり3幕から始めるという、大胆な構成を考えつかれたわけですね。

そうです。実際、お客さんの感想として面白かったのは、もともと『リア王』はかなり長い物語なので、多くのお客さんは結構後半は寝てしまうらしいんです。だからグロスターが次男エドマンドにハメられて罪のない長男エドガーを勘当してしまうなんていう展開の部分はあまり印象に残っていない。けれど僕は、グロスターこそがこの物語のもう一人の主人公だと思った。

かつて読んだときと、新たに読み直したときでは、川村さんのなかで『リア王』の捉え方の変化があったということですね。

『リア王』には高齢者の介護や認知症の問題が含まれているんだと。実は、読み直した時期は僕自身の母親の介護が始まった頃でもあって、正直いろいろと難しかったんです。そういう体験をしたこともあって、リアの物語というのは、昨今ひんぱんに指摘されている高齢者を取り巻く問題がすべて含まれているのじゃないだろうかと思うようになったわけです。これは若い頃にはさすがにわからなかった。

また僕も初老の域が近づいてきているわけで、年をとるとだんだん怒りっぽくなっていく感覚が理解できたりする。よく路上で一人ブツブツ怒っている老人とかいるでしょう?以前は理解できなかったそういうことがリアリティを帯びてくるんです。リアのエゴイズムというか、キャラクター自体もその意味で他人事じゃないと思えてきたのかな(苦笑)。きちんと読むと、リ

アも実は普通の老人というか、老いに直面すると誰にも必ず起こる問題が描かれているという気がしてきました。ですからこれは見事な老いのドラマだなと。

なるほど!

そしてこれは何より、親子関係がこじれて狂っていく老人たちのドラマです。それを強調するには狂ってしまったところから始めようと。また同時に、リアとグロスターの掛け合いに集中できる構成にしたつもりです。それからコーディリアを勘当したときにリアを諫めたことで追放されてしまった忠臣ケントが変装してリアを見守るのですが、もうこうなると社会に阻害され、不要になった男たちのコミュニティーです。ゴーストの『どん底』の舞台の貧民窟にも似ている。そこに定年退職して家でゴミ扱いされる男、ひきこもりの若者、ばけてしまった老人など、社会に適応できなくなった現代の男たちが重なって見えてくる。ならば、もう娘たちのほうのドラマはいいや、と(苦笑)。

シェイクスピアは長いのでカットされる場合もありますが、ここまでの大胆な試みは驚きです(笑)。

確かにそうかもしれません。『マクベスという名の男』や『タイタスの肉屋』を作ったころは、日本ではシェイクスピアは正統的な上演が多



く、シェイクスピアを批評する構成を持つ舞台はまだ受け入れられない時代でしたね。そのころから比べると、もう現在はさまざまな設定や解釈での上演が積み重ねられてきているわけで、そういうものに対する捉え方も変わってきて、これは進歩とっていいのではないのでしょうか。おっしゃるように『荒野のリア』は3幕から始める大胆な構成ですから、また文句を言われるかと思いましたが、むしろ評価を得ることができたようです。

近所の老人に見えるのに、 高貴さを秘めているのが 麿さんのすごさ

リア王を演じるのは、舞踏家でもある「麿赤児」。若いころに世界的評価を得る舞踏家の土方巽に師事し、また最近長野公演も頻繁に行っている「唐組」の前身、「状況劇場」で唐十郎が提唱する「特権的肉体論」を体現する役者として活躍していた。その独特で迫力ある存在感と身体性は唯一無二のものだ。

リアは麿赤児さんですね。麿さんでやろう!と思われた理由を教えてください。

『リア王』をやろうと思ったときに、もう麿さんしかない!と思っていましたね。それは今までになかったリア像を作ってくれるだろうと。結果的に麿さんがご自身の身体性みたいなものに役を手繰り寄せて、高貴な遠い国の王様というよりは「今そこにいる近所のおじいさん」とでもいうべき新しいリア像を作り上げてくれました。ただ、近所のおじいさんがあれだけ大言壮語したら、普通は齟齬をきたします。それを感じさせないのが麿さんのすごさ。どこ

から見てもよくいる日本のおじいさんのんだけど、非常にしっかりした身体性を持っているから、ある種の高貴さを湛えた老人リアとして見事に演じてくれています。

グロスター役には、テレビドラマ『半沢直樹』の古里則夫、『ルーズヴェルト・ゲーム』の大道雅臣役でお茶の間にも印象を強く残した、手塚とおるさんです。

手塚さんはもっとも信頼している役者さんの一人です。麿さんに対峙する存在を考えたときに、麿さんと同世代では拮抗できる俳優は浮かばなかった。手塚さんの奇妙な身体性じゃないかと思ったんです。

川村さんが長きにわたって試行錯誤してきた演劇の旅は、いまはどこにたどりついたわけですか?

ここ数年、吉祥寺シアターで公演するようになりました。ここは長野市芸術館のアクスペースにとってもよく似た劇場空間です。「吉祥寺」は、街の大きさと感じが、今の自分のやりたいことに合っています。そこでやろうとしているのは、演劇のコアなファンに向けてというよりも、そこで生活を営む普通の人に見てほしいと思える作品を作ろうということ。僕自身なりの言葉にすると深遠な大衆演劇かな。『荒野のリア』もそうだけど、楽しんで考えさせる娯楽作品を目指しています。これまで演劇に興味のなかった人も振り向かせたい、それがここ数年の思いです。若い頃は「わからないやつにはわからなくてもいい」、もしくは「これ見てわかれ!」みたいなのがった感じだったけど、今は共に苦難の時代を生きているお客さん方に寄り添いたい気持ちでいます。



© 宮内 勝

それでは最後に、信州の印象と今回の長野公演に向けてメッセージをお願いします。

第三エロチカの際に、松本市の「MATSUMOTO現代演劇フェスティバル'89」に参加したことがあります。あれは、地方での演劇祭の先駆けだったんでしょう? なつかしい。それから2010年には『新宿八犬伝 第五巻一犬街の夜一』で、まつもと市民芸術館で公演を行いました。とても熱心な演劇ファンが多く、客席から伝わってくる雰囲気よかったという印象を持っています。実は長野市で公演を行うのは初めてなんです。新しい地で芝居を上演し、新しい観客と出会うことほど刺激的なことはいない。だから期待は大きいですね。いい出会いになって、できれば一回限りのおつきあいで終わりにしたくないと思っています。

今井浩一（演劇ライター）

岡谷市出身・岡谷市在住。高校卒業後、大学では油絵を学ぶ。放送業界紙「文化通信」記者、演劇情報誌シアターガイド編集長、まつもと市民芸術館広報を経て、『engawa』という屋号のもと、現在はフリーランスの編集者・ライターなどとして活動。

荒野のリア

原作: W.シェイクスピア「リア王」

(松岡和子訳)

構成・演出: 川村毅

照明: 原田保

キャスト: 麿赤児、手塚とおる、米原幸佑、志村史人、笠木誠、中村崇、萩原亮介、森下庸之、太平

9/22(金) 18:30
アクスペース

全席指定 ¥4,500



わが国屈指のオーケストラが 次々と長野市芸術館へ。 歴代の指揮者たちとともに創り上げた 各々の個性を引っ提げて。

文：東条碩夫（音楽評論）



長野市芸術館メインホールに、日本の優れたオーケストラが、続々登場して来る。

10月1日には、東京交響楽団が、梅田俊明の指揮で出演する。

また11月6日には、オーケストラ・アンサンブル金沢が、音楽監督・井上道義の指揮で登場する。

ともに、わが国屈指のオーケストラだ。

東京交響楽団は、どんなオーケストラか？ 1946年に創立、最初は東宝交響楽団という名称だったが、1951年に現在の名に変えた。自主運営のオーケストラとして、初期の時代は非常に苦しい時代もあったが、それにもかかわらず、ソ連の作曲家ショスタコヴィチの交響曲など、当時の話題の作曲家の作品を次々に日本初演するといったような、意欲満々の気風にあふれていた楽団だったのである。1964年からは、秋山和慶（7月に当ホールで新日本フィルを指揮した、あの名指揮者だ）が、実に40年間にわたりこのオーケストラを率いたが、東京響独特の引き締まった緻密な響きは、実はこの秋山音楽監督時代に確立された、といってもいいだろう。

そして90年代半ば以降には、ユベール・スダーン（オランダ生まれ）、ジョナサン・ノット（英国生まれ）という2人の歴代音楽監督によって、日本のオーケストラ界におけるまったく独自の、非常に個性的なカラーが作り上げられることになる。スダーンは、その念入りの厳しい薫陶によって、完璧な音色のバランスを備えた、鋭い集中性を持った音楽を、この楽団にたたきこんだのだった。私は今でも、彼がシューベルトの交響曲の連続演奏で彼が聴かせてくれた、あの魔法のような不思議

な音色と、隙なく引き締まった峻厳な響きを忘れることができない。それは、この指揮者とオケだけが為しえた、奇蹟のような境地だった——と称しても過言ではないと思う。

そして、そのスダーンが築いたアンサンブルを引き継いで、現・音楽監督のノットが繰り広げている、現代音楽を積極的に取り入れた斬新な定期公演のプログラムも、ブルックナーやマーラーの巨大な交響曲で聴かせる鮮やかな切り口も、これまた見事なものだ。

東京交響楽団はその毎月の定期演奏会を、東京の「サントリーホール」（客席数2006）の他にも、神奈川県川崎市の「ミュゼ川崎シンフォニーホール」（客席数1997）でも開催しているが、それらの定期演奏会では、毎回ほぼ満員に近い盛況を示している。いい演奏をしているオーケストラには、自然に聴衆が集まって来るという、良い見本であろう。

もちろん定期演奏会では、音楽監督だけが指揮するのではなく、多くの客演指揮者がいろいろ得意のレパートリーを引っ提げて登場するのだが、そういう時でも聴衆は熱心に集まって来る。端的な例では、つい最近、8月4日に、このオケの正指揮者の肩書を持つ飯森範親がソ連時代の作曲家ボロフという人の「第1交響曲」という風変わりな作品を日本初演したのだが、そういう珍しい曲の時にさえ、客席はほぼ満杯だったのだ。私もこのオケの定期にはしばしば通っているのだが、そのような客席の雰囲気を見るたび、東京響の人気の高さに、嬉しい感慨に浸るのである。

一方、**オーケストラ・アンサンブル金沢**（OEK）は、1988年に創設された、比較的历史の新しい管弦楽団である。だがこのOE

Kくらい、世界の近代・現代の音楽の紹介に力を尽くして来た楽団は、日本のどこを探しても見当たらない。それは初代音楽監督だった故・岩城宏之のポリシーでもあった。彼はもともと「初演魔」と異名をとるほど、現代音楽の世界初演や日本初演に積極的だった指揮者だが、その意欲は新しく創立された「自分の」オーケストラにおいて、余すところなく生かされていたのである。交響楽団のスタンダードともいべき70～90人の大編成と異なり、40人程度の室内オーケストラ規模の編成としたことや、メンバーにも外国からの楽員を数多く採用したことなど、北陸の金沢に創立されたオーケストラの評判は当時東京にも聞こえて、活発なレコーディング活動とともに、話題には事欠かなかった。

OEKのその良き独特の芸風は、2007年1月に第2代音楽監督となった井上道義の時代になっても、堂々と引き継がれている。

OEKが本拠地になっている「石川県立音楽堂コンサートホール」（2001年開場、1560席）は、非常に良い音響のホールとの定評があり、「石川県立音楽堂で聴くOEKは天下第一品」という評判は、次第に全国のオーケストラ・ファンの間に広まっていった。私もあのホールを訪れ、井上とOEKの演奏を聴いたことがあるが、それはもう独特の、豊麗でふくよかな音色の味は美しいものがあった。なにより、響きのいいこのホールは、OEKの40人前後という編成を「小規模なもの」と感じさせず、たっぷりとしたどろかせていたのである。このオーケストラは、このホールでの音を基調として活動しているのだな、ということをしみじみと感じさせる、幸福な組み合わせなのであった。

北陸新幹線の延伸によって、このOEKを



本場・金沢まで聴きに行くことは、今や容易いことになったが、あいにく(?) OEKは、40人編成という身軽な所帯を生かして、「甲斐の足長」と呼ばれた武田信玄ばりに、どこへでも進出してしまふ「足長オーケストラ」なのである。そのため、こちらから金沢へ聴きに行こうと思う前に、OEKの方がこちらへ演奏しに来てしまうことが多いのだ。北海道から九州まで隈なく各地のオーケストラを聴き歩いている私が、意外に「石川県立音楽堂でのOEK」を聴く機会を多く持てないのでは、こうした事情もある。だが、おかげで各地のファンには、「オーケストラ・アンサンブル金沢」の存在が、至極身近なものになったのは確かである。東京よりずっと金沢に近い長野県のみなさんも同様ではないだろうか？

御承知の通り、この2つ以外にも、日本にはたくさんの立派なオーケストラがある。NHK交響楽団は、テレビで最も多く紹介されるので全国的に有名だが、そのN響を含め、「日本オーケストラ連盟」に加入しているプロ・オーケストラは、正会員だけで25団体、準会員も8団体を数えるのである。

東京では、たとえば東京都交響楽団が、昨年から日本のスター指揮者・大野和士を音楽監督に迎えて張り切っている。カンブルランを常任指揮者とする読売日本交響楽団も、得意の馬力で、重量感たっぷりの演奏を繰り広げる。ロシアの巨匠ラザレフのもとでここ数年来急速に演奏水準を高めた日本フィルハーモニー交響楽団も、今や聴衆の人気を集める楽団だ。

関西地域で、今最高の実力を誇るのは、広上淳一が常任指揮者として薫陶してきた京都市交響楽団だろう。また大阪には4つのオーケストラがあり、やはり井上道義が首席

指揮者を兼任している大阪フィルハーモニー交響楽団が老舗の貫録でひときり目立っている。さらに西へ行けば、広島交響楽団が来春から若手の下野竜也を音楽総監督に迎えることになっており、小泉和裕を音楽監督とする九州交響楽団も近年快調だ。東北以降にはオーケストラは西日本ほど多くはないが、山形交響楽団は飯森範親の音楽監督就任以来、昔とは見違えるほど明るいカラーを出しており、仙台フィルハーモニー管弦楽団も東日本大震災による苦難を乗り越えて以降、演奏に精神的な深みを加えた。北海道では札幌交響楽団が唯一のプロ・オーケとして君臨、音のよいコンサートホール[kitara]と一体となった音色の強みを発揮している。日本には、こういった素晴らしいオーケが各地に存在するのである。

これらのオーケは、それぞれある程度の特徴は持っているけれども、例えばウィーン・フィルやベルリン・フィルのように、聴いてすぐそれと判るような個性ではなく、むしろ指揮者の個性に影響されて、その都度変化していくといったものだ。これは、日本人の国民性特有の、秩序を重んじ、指揮者の言うことによく従うという性格から生まれた傾向だろうが、それはそれで面白いだろう。

さて今回、東京交響楽団は、前述のとおり梅田俊明の指揮で、ロシアの名曲集を演奏する。チャイコフスキーが生涯の最後に近い時期に作曲した「悲愴交響曲」は、非常に感情の動きの激しいシンフォニーで、彼の秘めたる内心を告白するような、感動的な音楽である。人気のピアニスト、横山幸雄が弾くラフマニノフの「ピアノ協奏曲第2番」の有名な主題も愉しめるだろう。

一方のOEK。ソリストにウィーンの名匠イエ

ルク・デームスを迎えての、モーツァルト最後のピアノ協奏曲となった「第27番」の香り高い魅力は聞き逃せないが、さらにシューベルトの交響曲「ザ・グレート」が注目されるだろう。井上が先年OEKを指揮した演奏では、第3楽章中間部の弦楽器のパートをすべてピッチカート(弓で弾くのではなく、指ではじく奏法)に変更するという解釈を行い、夢見のような官能的な効果を上げていた。今回も行われるかどうかはお楽しみ、といったところだが、もし実現したら、そこは神経を集中して聴いてみたい。

東条碩夫 (音楽評論)

FM東京でクラシック音楽番組の制作に携わる。1975年文化庁芸術祭大賞受賞番組制作。著書・共著に「朝比奈隆ベートーヴェンの交響曲を語る」(音楽之友社)、「伝説のクラシック・ライヴ」(東京FM出版)他。ブログ「東条碩夫のコンサート日記」が好評を呼んでいる。

オーケストラでめぐる 世界音楽の旅 Vol.1「ロシア」

梅田俊明(指揮)／横山幸雄(ピアノ)／
東京交響楽団

10/1@16:00 メインホール

¥6,000 A¥5,000
B¥4,000 C¥3,000

ショスタコヴィチ：祝典序曲 イ長調 作品96
ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第2番 ハ短調 作品18
チャイコフスキー：交響曲第6番 口短調 作品74「悲愴」

井上道義 指揮 オーケストラ・アンサンブル金沢 ピアノ：イェルク・デームス

11/6@15:00 メインホール

¥7,000 A¥6,000
B¥5,000 C¥3,000

モーツァルト：歌劇「フィガロの結婚」序曲 K.492
ピアノ協奏曲第27番 変ロ長調 K.595
シューベルト：交響曲第9番 ハ長調 D.944「グレート」

風が吹くものがたり～風の又三郎2016 -ODYSSEY OF WIND-



みなさんは宮沢賢治が書いた『風の又三郎』を読んだことがありますか？
この物語には実は二つのお話があって、一つは又三郎が「人間の男の子」なのですが、もう一つのお話の中では、又三郎が「風の妖精のこども」なのです。

妖精版『風の又三郎』は、大地や海を群れとなって循環する風の物語です。その姿は、サバンナを疾走するシマウマたちや、海を飛び跳ねながら横切っていくイルカたちのように躍動的でわくわくするような「風の生活」のすばらしさが描かれています。

今回上演される小池博史さん演出の『風の又三郎2016-ODYSSEY OF WIND-』では、この「風」というイメージを観客に感じ取ってもらうための演劇的仕掛けがたくさんちりばめられています。出演者ひとりひとりの動き方や言葉の使い方、衣装、舞台美術、音楽に至るまで、舞台上に現れる要素が、視覚や聴覚からさまざまな「風」を想起させる不思議な作品です。

この舞台空間を支えるのは、鍛え抜かれた身体表現を持つ役者たちの存在です。能楽師の清水寛二、コンテンポラリーダンスの松島誠、バリ舞踊家の小谷野哲郎、アクロバティックな大道芸人の谷口界などが顔を揃えており、宮沢賢治の世界に大きな影響を与えた仏教思想に通じる能の所作やバリ島の土着的な民俗舞踊、つむじ風を思わせるアクロバットな動きなどのさまざまな身体性が混然一体となった作品です。またスタッフワークとして、＜空気＞のインスタレーション作家・鈴木康広による舞台美術や元イッセイ・ミヤケのデザイナー浜井弘治の軽やかな衣装、尺八の中村明一、ジャンベなど民俗楽器を駆使したパーカッションの下町兄弟がライブで演奏するなど、からだ・ことば・美術・コスチューム・映像・音楽といった多彩な要素が、演出家・小池博史の手によって繊細に編み上げられ、おとなこども関係なく、“五感”を刺激するいくつもの「風」となってアクトスペースを吹き抜けます。 文：栗田康弘(演劇事業担当)

小池博史ブリッジプロジェクト 仙台版『風の又三郎/2016』

作・演出・振付：小池博史
音楽・演奏：中村明一(尺八)／菅谷昌弘／下町兄弟(パーカッション)
美術：鈴木康広 衣装：浜井弘治
出演：清水寛二／松島誠／小谷野哲郎／谷口界／松縄遥 ほか

10/22@17:00・23@14:00 アクトスペース

全席自由 一般¥3,500 高校生以下¥1,500

プラス・ファンたち必聴の侍BRASS公演と 初のアンサンブル・クリニック！

国内オーケストラ首席奏者たちとスタジオ界のトッププレイヤーが集結した最強のドリームプラス、管楽器を愛する者たちの永遠の憧れ、侍BRASS(サムライプラス)。結成10周年を迎える今年、待望の長野公演が実現します。

「侍BRASS 2016 川中島」という公演タイトルに表されるように、地元・長野市の「川中島」をテーマにした新作が演奏されることも大きな話題に。

この本公演の前日には、侍BRASSとしては初のクリニックが開催されます。楽団長でジャズ・トロンボーン奏者の中川英二郎が、ジャズ・ポップスの極意を惜しみなく伝授。管楽器をやっている人もそうでない人も、プラス・ファンならどなたでも参加OK。フュージョンバンドT-SQUAREの名曲で吹奏楽でも大人気レパートリーである《宝島》を素材に講座を展開します。管楽器を持って来るとお客さんでもアドリブ入門に参加できてしまいますよ。また、後半は、侍BRASS作品をレパートリーにするアマチュア・バンド「ちょんまげプラス」と、長野県内にゆかりのある若手プロ金管アンサンブル「アミックス・プラス・カンパニー」が受講生となつての公開クリニックとなります。ぜひこの機会をお逃しなく!! 文：長谷川綾(音楽事業担当)



侍BRASS楽団長・中川英二郎による アンサンブル・クリニック

講師：中川英二郎(侍BRASS楽団長／ジャズ・トロンボーン奏者)

9/24@14:00 メインホール

全席自由 ¥500

第1部：《宝島》(和泉宏隆 作曲)を用いたジャズ・ポップス講座

・ジャズ・ポップスとは？ ・リズムの出し方
・実践・アドリブ入門 ※みんなで参加しちやう!!(管楽器をご持参ください)

第2部：アンサンブル・クリニック

[参加アンサンブル]
ちょんまげプラス／アミックス・プラス・カンパニー

10歳でデビューした天才ヴァイオリニスト、 長野県内初のリサイタル。

世界三大コンクールのひとつ、チャイコフスキー国際コンクール最高位どうしの演奏家夫妻、ヴァイオリンの神尾真由子とピアノのミロスラフ・クルティシェフの、長野県内初のリサイタルが長野市芸術館で開催されます。「神尾真由子」・・・その名前をテレビで記憶の方も多いでしょう。2014年にテレビドキュメンタリー『情熱大陸』に登場。パリでブラームスのソナタ全曲をクルティシェフと演奏する様子が放送されましたが、そのソナタ全曲を初めて日本で演奏するツアーが今年10月に始まります。

長野公演では、ブラームス1番と中学生の頃から弾いているという3番のソナタを前半に。そして後半はこれぞヴァイオリンの珠玉集とでもいうべき最新アルバム「ヴァイオリン・アンコール」から、耳馴染みのよいメロディが次々と飛び出します。派手さはないものの深い内省や抒情的表現が問われるブラームス、そしてクルティシェフのピアノにのせて、神尾の世界最高水準の超絶技巧が鳴り響く小品集。これまでストラディヴァリウスやグァルネリ・デル・ジェズなどの名器を弾いてきましたが、最近祖父が購入してくれたという思い入れのある楽器を愛奏している彼女の、この贅沢なプログラムをぜひご家族でご堪能ください!! 文：長谷川綾(音楽事業担当)



神尾真由子(ヴァイオリン)& ミロスラフ・クルティシェフ(ピアノ)デュオリサイタル

10/22@14:00 メインホール

¥5,000 A¥4,000 B¥3,000 C¥2,000

ブラームス：ヴァイオリン・ソナタ第1番「雨の歌」／第3番

チャイコフスキー：メロディ

プロコフィエフ：行進曲 作品33bis-3

ショスタコヴィチ：ロマンス 作品97a-8

ハチャトゥリアン：剣の舞

ラフマニノフ：ヴォカリーズ 作品34-14

パツィーニ：妖精の踊り 作品25 ほか

舞台やコンサートだけじゃない！ 学び舎・長野市芸術館で、充実した秋を。



秋と言えば「芸術の秋」、そして「勉強の秋」。

暑い夏が終わり、集中力が高まる涼しい秋がやってきました。

長野市芸術館では、そんな勉強熱心なお客様のために、各種講座をご用意しています。

どの講座もとても個性的で、ほかではあまり見られないオリジナルな内容です。そして楽しみながら受講している内に、知識はもちろん、舞台やコンサートの鑑賞に役立つポイントを得たり、同じ趣味の仲間や、新しい友達までできてしまいます。

8月から一足先に開講したのは「えんげきワークショップ・ファシリテーター養成講座」。

演劇の手法を用いて、日常や学校での出来事を見直し、さまざまな気づきや学びを得ることを目的とした「コミュニケーション・ワークショップ」、その進行役のことを「ファシリテーター」と言います。ファシリテーターには、さまざまな職場や学校、地域活動を通じて「まち」をよく知り、「地域コミュニティ」の魅力を引き出す力が不可欠。この講座では、演出家でありワークショップ・ファシリテーターのわたなべなおこ氏を講師に迎え、「演劇ワークショップとは」といった初歩的なことから学ぶので、演劇経験は特に必要ありません。オリジナル劇や、物語をベースにした劇を創作したり、演劇的な手法を活用し災害が起きた時の対応について学んだりなど、思いもつかないような興味深い講座内容が並びます。

さて、みなさま大変お待たせしました。9月からはNCAC音楽大学「音楽の分かる大人になろう!」講座がスタートします。

昨年度にも行った講座をさらにパワーアップ。音楽について、作曲家について詳しくなりつつ、翌月のコンサートの予習もできるという石二鳥の講座となっています。

講師は音楽ライターの柴田克彦氏。昨年は、ベートーヴェン「運命」の冒頭を25種類ものCDで聴かせてくれましたが、今年はどんな手法で私たちを楽しませてくれるのでしょうか…? (7月に行ったナガノ・チェンバー・オーケストラ第1回定期演奏会のベートーヴェン講座では、やはり、ベートーヴェンの交響曲全9曲の終楽章の聴き比べを行っていたので、今年もまたたくさんCDを聴かせてくれるのかも??)

第1回目はロシア音楽を取り上げます。その後はモーツァルト、シュトラウス、そしてまたもやベートーヴェン。その合間には、声楽やオーケストラ、ピアノについての講座も織り込み、バラエティ豊かにお届けします。

10月からはNCAC音楽大学「リトミック」講座が始まります。

リトミックとは、音楽を感じる心を育てるところから始まる音楽教育。日本では幼児教育に取り入れられることが多いのですが、実は、大人や

演奏上級者にも適しています。リトミックを体験してから表現の幅が広がった、とレッスンの先生を驚かせることもよくあります。

ここで注目なのが、「大人のリトミック」。ピアノを弾いたことはないけど、子どもたちが楽しそうに練習しているところに加わりたくなったことはありませんか? または、習っている楽器をお孫さんに聴かせた時に、うまいね! と褒めてほしいと考えたことはありませんか?

リトミックは身体表現も行いますが、実は、即興演奏や作曲まで学ぶ教育法なのです。体験することで「音楽を感じる心」が養われ、表現が豊かになります。また、ちょっとした即興演奏ができるようになれば、子どもたちとの共演も可能となるかもしれません。

音楽に関心があったらぜひ一度、リトミックを体験してみてください!

そして、11月開講のNCAC音楽大学の「音楽華道」講座。

「音楽華道」って何ですか? とたくさんのお問い合わせをいただいています。実は「音楽華道」とは、華道家・前野博紀氏と長野市文化芸術振興財団との話し合いから生まれた、全く新しい芸術分野です。あるクラシックの演奏を聴き、頭に浮かんだイメージを、キャンバスに絵を描くように花をいけて表現する…。

そう聞くと、何かものすごく難しいことのように感じるかもしれませんが、お花も音楽も全くの未経験者から受講できる講座です。花ばさみだけ持参していただければ小学生から受講可能。前野博紀氏は、草月流の中でも特に前衛的な作品で知られており、その表現は自由そのもの。この講座でも、新たな作風を開拓する新人アーティストが生まれるかも!? 受講生全員の作品は、名門ウィーン・リング・アンサンブルが行うニューイヤー・コンサートの会場に飾られます。

文：牟禮美華子(音楽普及事業担当)

えんげきワークショップ・ファシリテーター養成講座(全8回)

講師：わたなべなおこ(演出家)

8/21日・9/18日・10/16日・11/13日・12/25日・1/22日・2/19日・3/26日

受付は終了いたしました。

NCAC音楽大学

「音楽の分かる大人になろう!」講座(全7回)

講師：柴田克彦(音楽ライター／音楽評論家)

9/22日・10/30日・11/27日・12/23日・1/29日・2/26日・3/26日 各回共14:00

リサイタルホール

全席指定 1回券¥500 7回券¥3,200

NCAC音楽大学「リトミック」講座(全5回)

講師：坂本真理子

(全日本リトミック音楽教育研究会常任理事 本部指導講師)

10/3日・11/7日・12/5日

2017 2/6日・3/6日 リハーサル室

各日11:00「親子のリトミック」全席自由 親子ペア¥200 ※0〜3歳を対象。
各日13:00「大人のリトミック」全席自由 ¥500

NCAC音楽大学「音楽華道」講座(全3回)

講師：前野博紀(華道家)

11/20日・12/11日

2017 1/8日各日14:00 リハーサル室

受講料：¥15,000(3回分/花材・花器の費用を含む)

ペア受講料：¥15,000(3回分/花材・花器の費用を含む)

※生けるお花は2人で1つとなります

※親子、夫婦、カップルなど組合せは自由

成果発表会

ウィーン・リング・アンサンブル

ニューイヤー・コンサート

2017 1/9日(祝)15:00

メインホールホワイエ

受講生は客席で鑑賞します。

ユジャ・ワン ピアノリサイタル



9/11⑨ 17:00 メインホール

B¥7,000 A¥5,000 B¥3,000

スクリヤーピン：ピアノ・ソナタ第4番 嬰ヘ長調 作品30

ショパン：即興曲第2番 嬰ヘ長調 作品36

即興曲第3番 変ト長調 作品51

グラナドス：「ゴイエスカ」作品11より

ともしびのファンダンゴ

わら人形

ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第29番 変ロ長調 作品106「ハンマクラヴィア」

今、若手ナンバーワンピアニストとして絶大な評価と人気を誇るユジャ・ワン。自由奔放さ、鍛錬に裏付けられた若さ溢れる大胆な想像力、成熟したアーティストらしい精密さを兼ね備えた演奏は高く評価されています。シカゴ響、フィラデルフィア管、コンセルトヘボウ管などの一流オーケストラと共演。レコーディングはドイツ・グラモフォンと専属契約を結び、グラミー賞にもノミネートされています。

主催：信濃毎日新聞社、オフィス・マユ、(公財)信毎文化事業財団

侍BRASS 2016 川中島

エリック・ミヤシロ
(トランペット)本間千也
(トランペット)松田優太
(トランペット)奥村晶
(トランペット)小林祐治
(ホルン)中川英二郎
(楽団長
トロンボーン)野々下興一
(バストロンボーン)齋藤充
(ユーフォニアム)次田心平
(チューバ)髭白健
(パーカッション)

9/25⑨ 15:00 メインホール

B¥3,000 A¥2,000 B¥1,000

高橋宏樹：文明開化の鐘

中川英二郎：侍 <SAMURAI>

エリック・ミヤシロ編：アフリカンシンフォニー

高橋宏樹：川中島(世界初演) ほか

国内オケ首席奏者とスタジオ界のトッププレイヤーから成るユーフォニウム搭載の最強のドリームプラス。2016年は衝撃のデビューから10周年を迎えます。結成以来、ジャストロンボーン奏者・中川英二郎と、超人的ハイトーンで聴く者を驚愕させるエリック・ミヤシロを中心に、パワフルかつ洗練された演奏で聴衆を魅了してきました。徹底して和のテイストにこだわるの彼らならでは、プラス愛好家たちよ、集まれ!

※当初出演を予定していたチューバ奏者の荻野晋は体調不良のため出演が不可能となり、次田心平に変更となりました。

TSUKEMEN LIVE 2016 @長野市芸術館

ヴァイオリン：TAIRIKU/ヴァイオリン：KENTA/ピアノ：SUGURU



11/19⑨ 17:00 メインホール

B¥4,500 A¥4,000

曲目未定

ヴァイオリン2本とピアノからなる、アコースティック・インストゥルメンタル・ユニット TSUKEMEN。リーダーの佐田大陸は諏訪市出身。長野にゆかりのあるアーティストとして、長野市内でも年々ファン層を拡大している彼らが、長野市芸術館開館のためのオリジナル・プログラムを引っ掛け、オープニング・シリーズに駆けつけます!

すべてのピアノ愛好家に贈る～
小川典子スペシャル・マスタークラス
&ミニ・コンサート

講師：小川典子(ピアノ)

受講生：長野市内・近隣のピアノ愛好家・演奏家

12/10⑨ 14:00 リサイタルホール

聴講・鑑賞 全席自由 学生(高校生以下)¥500 一般¥1,000

〈マスタークラス〉

モシュコフスキ：メヌエット

ショパン：練習曲第5番「黒鍵」

シューベルト：即興曲 変ホ長調 作品90-2 ほか

〈小川典子ミニ・コンサート〉

モーツァルト：トルコ行進曲

シューマン：トロイメライ

リスト：ラ・カンパネラ

ドビュッシー：月の光

ショパン：スケルツォ第2番 ほか

ピアノを頑張っている小学生、ピアニストを目指す高校生、授業で子どもたちにピアノを聴かせたい学校の先生など、5名の受講生が集まりました。世界的ピアニスト・小川典子氏の指導を受けて、どのように音楽が変化していくのか?それを聴講することは面白いだけでなく自身の勉強にもなります。また最後に行う小川典子ミニ・コンサート、ピアノ愛好家憧れの珠玉の作品が揃いました。これは必聴です!!



©S.Mitsuta

人形劇俳優たいらじょう『よだかの☆星／セロ弾きのゴーシュ』

演出・人形劇俳優：平 常



12/17⑨17:00・18⑩14:00 アクトスペース

全席自由 一般¥3,000 高校生以下¥1,500

一人芝居と人形劇を融合させた唯一無二の表現方法と世界観で、観るものの心に＜目には見えない風景＞を映し出す。今回の公演では、たいらじょうく人形劇＞の出発点でもある＜宮沢賢治＞作品を2本立てにて上演。公演に先駆けて、地域の小学生を対象とした人形劇ワークショップを2日間に渡り開催します。

「よだかの☆星」：なにもない舞台の中、たいらの手が鳥を演じ、果てしない大空をどこまでも飛び回る姿が表現される。たいらじょうの真骨頂といえる名作。観客は、まるで自分が夜空の中に居るかと思うほどに景色を感じられる舞台。

「セロ弾きのゴーシュ」：セロを弾くのが苦手な主人公ゴーシュ役をたいらじょう自らが演じ、愛らしく愉快な人形達の演技と見事に融合。動物達との交流を通して変化してゆくゴーシュの心情が丁寧に描かれる。

【関連企画】子どものための人形劇ワークショップ(2日間)

子どもたちが自分の力で考え創り出すことをサポートしながら、最終的にはみんなでひとつのものを創り上げます。人形を通すことによって、自分の想像を超えた表現力に子どもたちは出会えます。

※対象年齢：小学1年生～6年生(予定)

※参加人数：20名程度(予定)

ウィーン・リング・アンサンブル ニューイヤー・コンサート



2017 1/9⑨ 15:00 メインホール

⑨¥6,000 ⑩¥5,000 ⑪¥4,000 ⑫¥3,000

スッペ：オペレッタ「ウィーンの朝・昼・晩」

J. シュトラウスⅡ世：ワルツ「南国のほら」

ボルカ「狩り」

ボルカ・シュネル「雷鳴と電光」

シューベルト・メドレー ほか

世界最高峰と言われるオーケストラのひとつ、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のメンバーが、元旦恒例のウィーンでのニューイヤー・コンサートを終えたその足で来日。“ウィーン・フィル・ミニチュア版”がウィーンでの公演さながらに、軽やかなワルツやボルカで長野の新年を華やかに彩ります。ステージには華道家でNCAC音楽大学「音楽華道」講座の講師、前野博紀が装花を行い、ホワイエには指導を受けた受講生のいけ花が並びます。

VOCES8 クリスマス・ライブ

VOCES8 (声楽アンサンブル)



©Amma Saunders

12/24⑨ 15:00 メインホール

⑨¥4,000 ⑩¥3,000 ⑪¥2,000 ペア券(⑨のみ)¥7,000

バード：主を賛美して歌え

デヴィッド・ボウイ：チェンジス

ヘンデル：「メサイア」より ハレルヤ・コーラス

エルトン・ジョン：ライオン・キング・メドレー

ABBAメドレー

アンジェラ・アキ：手紙

レット・イット・スノー

ジングルベル ほか

英国の最先端ア・カベラ・コーラスグループ。ポリフォニー音楽から古典教会音楽、クラシックからポップス・ソングまで驚くべき幅広いレパートリーを透き通った完璧なハーモニーで歌いこなし、さらに楽しいステージ・パフォーマンスまで繰り出す、男女たった8人とは思えない極上のエンタテインメント。大切な人と、優美で楽しいクリスマス・ソングに包まれる素敵なイヴのひとつときを。

ナガノ・チェンバー・オーケストラ 第3回定期演奏会

指揮：久石 譲

コンサートマスター：近藤 薫

(東京フィルハーモニー交響楽団 コンサートマスター)



2017 2/12⑨ 15:00 メインホール

⑨¥5,000 ⑩¥4,000 ⑪¥3,000 ⑫¥2,000

ヴィヴァルディ／マックス・リヒター：《四季》より 冬(リコンポズド)

ベートーヴェン：交響曲第4番 変ロ長調 作品60

交響曲第3番 変ホ長調 作品55「英雄」

芸術監督・久石譲が敬愛するベートーヴェンの交響曲全曲演奏の第3回定期演奏会は、ご存知、第3番《英雄》と第4番がメイン・プログラム。近年脚光を浴びつつある作曲家マックス・リヒターの編曲で超有名曲ヴィヴァルディの《四季》より「冬」もお楽しみいただけます。これはもう、ロック!です。

NCACチケットオンライン先行発売：10/6㊦10:00
一般発売：10/8㊦10:00

三遊亭究斗ミュージカル落語 「宮沢賢治」

2017 1/15㊦11:00/15:00 アクトスペース

全席自由 一般¥3,000 高校生以下¥1,500



劇団四季出身の三遊亭究斗にしかできない「ミュージカル」と「落語」を合わせた「ミュージカル落語」。「音楽」と「歌」と「語り」、エンターテインメントたっぷりです。どんなシリアスな作品も笑いが入り、感動的な作品ばかり。究斗が作・構成し、選曲し、作詞をつけ演出する。まさに究斗ワールド! 今回の公演では、松代のこども落語塾「松楽館」のちびっこ落語家たちが前座を務めます。

NCACチケットオンライン先行発売：11/10㊦10:00
一般発売：11/12㊦10:00

二兎社公演41『ザ・空気』

作・演出：永井愛
出演：田中哲司、若村麻由美、江口リコ、大窪人衛、
木場勝己 ほか
美術：太田創
照明：中川隆一
音響：市来邦比古(スタジオオフィス)
衣裳：竹原典子

2017 2/25㊦13:00 メインホール

S¥5,000 A¥3,000



作・演出の永井愛が芸術選奨文部科学大臣賞に輝き、ハヤカワ「悲劇喜劇」賞、「シアターアーツ」年間ベストステージに選ばれるなど、2014年の演劇界の話題をさらった「鴉外の怪談」。オーソドックスな舞台づくりに定評のある永井愛が、前作から一転して取り組む新作は、日本の「今」を描く現代劇です。テレビ局の報道現場を通して現代の日本を覆う奇妙な“空気”の正体に迫ります。

NCACチケットオンライン先行発売：12/8㊦10:00
一般発売：12/10㊦10:00

クラブNCAC ミステリー・ジャズナイト

2017 2月 アクトスペース(詳細近日発表)

全席指定 ¥5,000

出演者、曲目等は公開時まで非公開



まずは、チラシの裏面をじっくり読んでください。出演者や公演の聴きどころを解説した紹介文、詳しいプロフィールなど数々の情報が載っています。公演を演奏家のネームバリューで選ぶのではなく、こうした情報から判断し、好みの演奏に大当たりした時の気分は最高です! 当日まで誰が来るのか分からない「ミステリー」を、情報をもとに解き明かす楽しさとともに、クラブハウス風にお酒を片手に文字通り演奏に酔いしれる、上質な大人の時間をお過ごしいただけます。

オペラシアターこんにゃく座 オペラ「想稿・銀河鉄道の夜」

台本：北村想「想稿・銀河鉄道の夜より」
作曲・音楽監督：萩京子
演出：大石哲史
振付：伊藤多恵
出演：オペラシアターこんにゃく座
クラリネット、チェロ、ピアノの生演奏

2017 3/18㊦17:00・19㊦14:00 アクトスペース

全席自由 一般¥3,500 高校生以下¥1,500



シェイクスピアやブレヒト、夏目漱石や樋口一葉、古今東西のさまざまな文学の中に新しいオペラの可能性を求めて、これまでたくさんのおpera作品を生み出してきた「こんにゃく座」。その中でも最も多く取り上げられているのが宮沢賢治原作の物語です。賢治の言葉や文体は、音楽となって語り、奏で、歌われることによって、生き生きとした魅力があふれる日本語というものを感ぜさせてくれます。オペラ「想稿・銀河鉄道の夜」は、80年代小劇場を代表する名古屋の劇団「プロジェクト・ナビ」の劇作家・北村想が、独自のアプローチで宮沢賢治を読み直した名作を「こんにゃく座」が新解釈を加えてオペラ化した美しい音楽劇の5年ぶりのリニューアル・バージョンです。

アクトスペースについて、 語ります。



長野市芸術館 3F にある可変型多目的ホールの「アクトスペース」は、ブラックボックス型小劇場。基本形状での舞台は間口 18m 奥行 7m となりますが、客席を収納すれば、奥行きを広くとることも可能です。また、客席の段床は壁面収納式のロールバックとなっているため、収納して平土間にすることもできます。平土間形式時は、間口 18m 奥行 18m となるため、展示や会議などにも利用が可能です。

この「アクトスペース」は、芸術館内の他の 2 つのホール（メインホール・リサイタルホール）とは違い、演劇等を主体として設計されており、セリフや言葉が聞き取りやすくなるよう、残響を少なくするために壁の一面に吸音材が使われています。演者の皆さん！セリフをかんでもしまっても、お客様にはしっかり聞こえていますので、決して誤魔化さないように！

上部には、「第 1 ギャラリー」と「第 2 ギャラリー」があります。

「第 1 ギャラリー」は、主に照明・音響の技術者が操作卓でオペレートする場所です。舞台（アクティングエリア）をどの場所にも設定できるため、技術者が舞台を正面から見て操作する場所に移動できるよう、壁際で全体を囲う様に設置されています。また、技術者が、隔離された部屋ではなく、お客様と同じ空間でオペレートするため、見た目や聞こえ方などお客様と同じ体感をしながらの、より細かなオペレートが可能です。

公演でアドリブがあったりすると、第 1 ギャラリーが多少“ざわつく”ことがありますので、鑑賞にお越しの際は、舞台だけでなく、第 1 ギャラリーに少しでも注目するのも、面白いかもしれません。

第 1 ギャラリーのさらに上にある、天井部には「第 2 ギャラリー」があります。ホール全体を網羅できるよう、7 か所の通路があります。各通路の両側にはバトン（鉄管）があり、照明器具が設置できるようになっています。舞台をどの場所に設けるかによって、照明器具の位置も変わりますので、どの場所になっても対応できるようになっています。

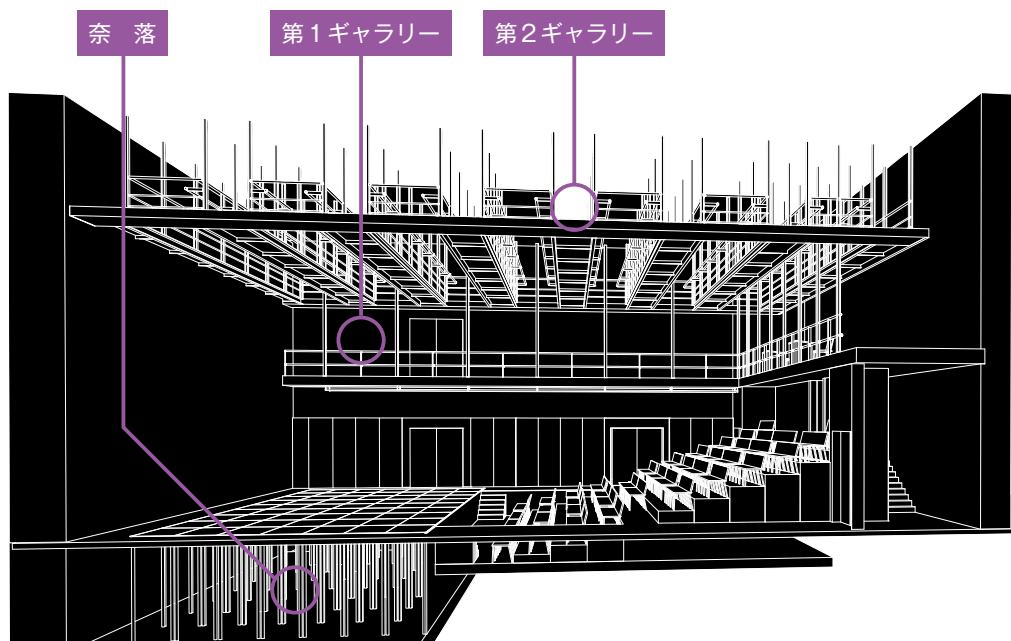
床から約 8m の高さにあります。通路はスリットになっていて下が見ええます。照明の当て具合を見るのに、真下も見えないと調整辛いとは思いますが、高いところが苦手な方には、とても怖い場所です。私も館内であまり行きたくない場所の一つです。

「アクトスペース」の仕掛けは、まだまだこれだけではありません。

床面は、なんと束足立で組まれており、約 3m が奈落となっています。90cm × 180cm の単体床を敷き詰めてありますが、これら一つ一つが束足で立っているのです。この束足の長さを変えることで、床面に高低差を設けることが可能になります。頑張ればそれぞれ単体ごとにボコボコの床面を作ることだってできます。とはいえ、普段から皆さんが歩く床面ですので、とても頑丈につくられています。安全で頑丈に作ってある分、重さもそれ相応…。『床面の形状を変えて、面白い演出の舞台にしたい』という方は、道具等はこちらでご用意しますので、体力、筋力、スタミナをご持参ください。一緒に汗を流しましょう！

観覧も利用も楽しめるこの「アクトスペース」は、公演の度に違った形状になります。一度と言わず、二度三度お越しいただき、その変化をお楽しみください。

文：大山鋭裕 (NCAC 施設担当)



人形劇俳優たいらじょうが、小学生と共に2日間で人形劇をつくります!

この企画は、12月に開催される『よだかの☆星／セロ弾きのゴーシュ』公演に先駆けて、幼少のころから親しんできた人形劇を創ることの楽しさを、長野のこどもたちにもぜひ体験してもらいたいという、たいらじょうさんの切なる願いから企画されたものです。

たいらじょうさんの人形劇は、時に道具も人形もなく、自分の手だけを使って物語を紡ぎ出します。立派な道具や人形がなくても、そこに演者と観客の想像力さえあれば、身の回りにあるありあわせのものを工夫して、みんなのイマジネーションを一つに合わせることで、自分でもビックリするくらいステキな表現を生み出すことのできるのです。

今回は2日間のプログラムを通して、人形劇づくりの入口を体験してもらおうと思っています。

- 日時：2016年12月10日(土)・11日(日)の2日間 10:00～16:00
- 対象年齢：小学校1年生～6年生
- 募集定員：15名(先着順)
- 参加費：2,000円
- 応募方法：9月3日(土)の一般発売日以降、NCACチケットセンター窓口にて、『よだかの☆星／セロ弾きのゴーシュ』公演のチケットをご購入の上、所定の申込用紙に必要事項をご記入ください。



音大受験であがらないために、実技模擬試験を受けてみませんか?

音大の受験科目は、通常の教科のほか、楽典、聴音、新曲視唱などたくさんの科目があり、全ての試験を終えるのに数日かかることもあります。

最も難しいのが、「怖そうな試験官の前で、いかに普段通りの演奏ができるか」が問われる実技(演奏)試験。でも、他人の前で演奏することは、普通の高校生にはあまり機会がありません。

本番の受験前に、少しでも場馴れしておきたい高校生のために、実技模擬試験を行います。本物の試験会場さながらに、目の前に(怖そうな)試験官たちがずらりと並び、採点されるというプレッシャーを受けながら演奏を行う、という体験をしてください。

試験官は、クラシック音楽キャラバンアーティストたちが務めます。幾多の試験やオーディションをくぐり抜け、プロとして演奏活動を行っている彼ら。模擬試験後には批評や助言をもらえます。あがらないコツなども教えてもらえるかもしれませんよ。



音楽大学受験生のための
実技模擬試験[非公開]

2017 1/14^①
長野市芸術館リハーサル室ほか
受験料¥3,000 [受験生募集] 11月受付開始予定

親子で楽しむ長野市芸術館「サマー・キッズ・デイズ2016」終了です

皆さん、今年の夏休みはいかがでしたか? 特別な思い出、初めての体験……。夏はいろいろな活動ができる時期です。長野市芸術館も開館して初めての夏を過ごしています。そんな長野市芸術館で8月4日から11日まで、夏休みの親子向け特別プログラム「サマー・キッズ・デイズ 2016」を行いました。期間中、館内はたくさんの子どものまぶしい笑顔、響き渡る賑やかな笑い声でいっぱい。こちらスタッフも皆、一緒に心を躍らせていただきました。

この親子向けプログラムは「芸術って難しくて近寄りたくないものじゃない、親子で遊びに来てね!」という主旨。5つの公演やワークショップがありました。ざっくりご紹介すると、①フランスからやって来た2人・シルク・イナシュヴェによる、すごくて超おかしなジャグリング・パントマイム「ピスト&ラブ」。②動物たち(ゾーシアンブラス&弦うさぎ)による不思議でステキで時折笑っちゃうクラシックコンサート「音楽の絵本」。③ピアノと語りに加えて、おしゃれでかわいいイラストのスライドによる幻想的な世界「月夜のナイチンゲール」。④一日だけの能舞台を用意して「能」の仕舞と囃子を体験(これってホント貴重!)した「親子de能楽体験」。⑤女の子の憧れ「夢のパレエの世界」を、観たりティアラの制作をしたりとたっぷり満喫した「ドン・キホーテの夢」。

驚いたのは、子どもたちの集中力。実は始まる前は、子どもたちが泣いたり叫んだりホールの中が大騒ぎになるのかな、と少し危惧してたんですが、その心配は全く不要でした。子どもたちはすっかりその世界に入り込んで、目を輝かせていました。あるアーティストからも「長野の子どもたちってすごいね!感動した」と声をかけられたほど。それは子どもたちにとって「芸術を楽しむ」というスタンスでなく「楽しんだのが芸術だった」というごく自然なものだったのでしょう。未来の担い手である子どもたち、また芸術館に遊びに来てくださいね!



みんな、
遊びに来てくれて
ありがとうニャ♪

「Nチケ会員」募集中！

「Nチケ会員」は「NCAC(Nagano City Arts Center)チケットオンライン会員」の略称です

- ▶ 会員のみご利用いただけるチケット先行発売あり。
お気に入りの席はお早目に！
- ▶ 月1回、メールマガジンで最新情報をお届けします(ご希望の方のみ)。
- ▶ 入会費・会費 無料です。

会館主催公演をはじめ、芸術館の公演や催しのチケットをオンラインで購入できる会員制度です。ぜひ、ご登録をお願いいたします。

お申込み・詳細は、公式ウェブサイト内の「NCACチケットオンライン」にて！

長野市芸術館

検索

チケットご購入の方法は3つ 便利です！

1  インターネット

2  電話

3  チケットセンター窓口



NCAC チケットオンライン

<http://www.nagano-arts.or.jp>

AM3:00~4:00 はメンテナンスのため休止

Nチケ会員限定

お支払い方法	チケットお引取り方法 / 手数料・送料	備考
① チケットセンター窓口 [現金 / クレジットカード]	チケットセンター窓口 / 手数料：無料	窓口でのお支払い期限は7日以内です。
② 銀行振込	チケットセンター窓口 / 手数料：無料 郵送 (簡易書留) / 送料：402 円	お支払い・お振り込み期限は7日以内です。 振込み手数料はお客様負担となります。
③ オンライン決済 [クレジットカード]	チケットセンター窓口 / 手数料：無料 郵送 (簡易書留) / 送料：402 円 コンビニ発券 / 手数料：173 円	
④ コンビニ [セブンイレブン / サークルKサンクス]	コンビニ発券 / 手数料：270 円	コンビニでのお支払い期限は7日以内です。



NCAC チケットセンター

TEL / 026-219-3191

場所 / 長野市芸術館 1F (長野市大字鶴賀緑町1613)

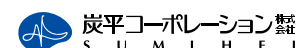
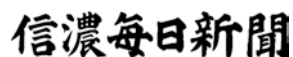
営業時間 10:00~19:00 / 火曜定休

お支払い方法	チケットお引取り方法 / 手数料・送料	備考
① チケットセンター窓口 [現金 / クレジットカード]	チケットセンター窓口 / 手数料：無料	窓口でのお支払い期限は7日以内です。
② 銀行振込	チケットセンター窓口 / 手数料：無料 郵送 (簡易書留) / 送料：402 円	お支払い・お振り込み期限は7日以内です。 振込み手数料はお客様負担となります。
③ コンビニ [サークルKサンクスのみ]	コンビニ発券 / 手数料：270 円	コンビニでのお支払い期限は7日以内です。

<チケットご購入に際して>

- 不可抗力による公演中止の場合を除き、チケットの払い戻し・交換はいたしません。
- 支払期限内にお支払いがない場合、ご予約がキャンセルとなりますのでご注意ください。
- 車椅子席をご希望の方はNCACチケットセンターへお電話でお問合せください。
- 正規プレイガイド以外でチケットを入手された場合、無効となり入場できないことがあります。

ゴールドパートナー



シルバーパートナー

クリーニングザれもん スタインウェイセンター高崎 ホテル国際21

ブロンズパートナー

(株)アサヒエージェンシー
アペレコード
(株)共立プランニング
鮎レストラン大政
東信運送(株)
(株)長野三光
長野税理士法人
(株)ビー・クス
(株)マルイチ産商

(株)アスク
うなぎの浜名屋
共和観光(株)チサングランド長野
清泉女学院グループ大学・短大・高校・中学
(株)ながのアド・ビューロ
長野証券(株)
(株)ながの東急百貨店
ベイクックコーポレーション(株)
マルコメ(株)

(株)アド・ユニティー
オフィス繭
ししとう
(株)鳶友
(一社)長野県経営者協会長野支部
長野商工会議所
(株)長野舞台
(株)ホテルメトロポリタン長野
(株)守谷商会

サプライヤーパートナー

(株)AOKIホールディングス (株)ヒシヤ (株)八幡屋礪五郎

※各パートナー毎・五十音順

NCAC
Magazine
Opus3 / September 2016

発行 | 一般財団法人長野市文化芸術振興財団
Nagano City Arts Foundation
〒380-8512 長野県長野市大字鶴賀緑町 1613 番地
TEL | 026-219-3100 Fax: 026-219-3110
E-mail | info@nagano-arts.or.jp
URL | http://www.nagano-arts.or.jp/

発行日 | 平成28年9月1日
企画・編集 | NCAC 広報室
デザイン | 株式会社ビー・クス
装丁画 | 越ちひろ
印刷 | 中外印刷株式会社

© 無断転載禁止

公演内容は2016年8月現在のものです。最新情報については長野市芸術館公式ウェブサイト等をご覧ください。



長野市芸術館
NAGANO CITY ARTS CENTER